

令和5年 飯田市教育委員会9月定例会会議録

令和5年9月19日（火） 午後 3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子
教育委員	野澤 稔弘

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	今井 栄浩
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長兼考古博物館長	宮下 利彦
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人
学校教育課教育支援係長	麦島 隆
学校教育課教育指導専門主査	木下 耕一
学校教育課教育指導専門主査	櫻田 誠二

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは時間になりましたので、令和5年9月定例会を始めます。よろしくをお願いします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、会期の決定。9月定例会の会期を本日1日といたしますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、会議録署名委員の指名。会議録署名委員を野澤稔弘教育委員さんをお願いいたします。

◇教育委員（野澤稔弘） はい。

○教育長（熊谷邦千加） お願いします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、会議録の承認。8月の定例会の会議録をご覧ください。

何かご意見がありましたらお願いをいたします。

（「特にございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご意見なしということでありがとうございます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして日程第5、教育長報告事項。

別紙をご覧ください。後ろは議会が先週、一般質問2日間に分けてございましたので、その分が増えておりますが、様々な8月以降、場所に、会に呼んでいただきまして参加をさせていただきました。

飯伊地区の水泳競技大会と第56回学童泳力テストというのがアクアパークで行われました。学童泳力テストは、非常に長い歴史があって、過去には中央公園の上の今、砂地になっているところでやったことを私も記憶に残っていて、ものすごい子どもたちが集まってきた記憶がございますが、今回は273人が参加されたということで、開会式に参加させてい

いただきました。水泳協会から要望いただいていたコースロープも、ぜひ良い長持ちするものというご要望をいただいて、生涯学習・スポーツ課で予算を超えてうまく高級なものを設置したということで、長く大事に使っていただけるかなと思っています。昔と違うのは、やはり参加の仕方が学校ごとではなくて参加する選手のご家庭ごとという感じで、外にテントが並んでいるのですが、大体ご家庭ごとのテントが並んでいるという形でした。

2つ目の地震総合防災訓練は、初めて私も実際の防災訓練に参加しました。本部会議の後に本番さながらの記者会見というのもやるんですが、マスコミとして参加された方が実際に近いような質問をされて、本番さながらの訓練ということは大事だなということを改めて感じました。教育委員会としては、災害対策班として、教育部学校教育班と教育部生涯学習班に分かれて対応を検討いたしました。本部会議で話題になったのは、いざ災害が起きたとき、先生方が来られないと体育館の鍵は開かない。みんなそこに避難集まってくる、さあどうするんだということも協議いたしました。やはりいろんなことを想定しておくことが大事だなと感じたところであります。

3つ目の長野県子ども新聞コンクール飯田下伊那地区作品審査会というのに参加させていただきました。これは飯伊地区の教育長・職務代理の代表という形で参加したのですが、ここまで選ばれた作品はいずれも優れていました。それはテーマの面白さだったり、足を使った取材だったり、実際にインタビューをしていたり、あるいは割り付けなどの紙面の工夫、そういうところが非常に優れたものが代表になったかなと思います。これは夏休みの課題ではあるんですけど、思考力・判断力・表現力が鍛えられる機会になるなあと感じました。

4つ目はスリンプルプログラムの実践見学です。昨年从不登校生を生まない学級づくりのための研修をすすめてきた旭ヶ丘中学校で今年、中学校区全体での生徒指導研修を行っていただいたんですが、そこに飯田市も全小中学校に呼びかけているスリンプルプログラムというのを実際にやっている場面を見ていただきました。学級の中で、隣同士で例えば「好きな食べ物」についてお互いに言って、それについて質問をしあったりして、意外と同じ教室にいても知らないことの多い友達のことの良さも知りながら、人間関係をつくっていくってようなものであります。名城大学の曾山先生の講演があり、「昔はそういうことは学校でしなくても、遊びの中とか地域の中での関わる力っていうのは育まれてきたんですけども、コロナがあって今の時代はそういう関わる力を伸ばす場所が学校でしかないんじゃないか」と。こういうスリンプルプログラムによって、10分とか15分くらいの短時間なんですけれども、お互いにテーマについて質問しあったり、共感したりという

ような場をつくっていただいていたました。大事なことはこれを継続できるかどうかと、「全校で一枚岩になって」というお話もいただきました。子どもたちに「この時間はどうなの」って聞いてみたら、「楽しい」って言ってましたので、これはとても良いことだなと思いました。

裏面については、地域史研究会について、こちらの「飯田下伊那の学制と地域社会」というようなことで、飯田下伊那地区が今年、去年と 150 周年を迎えた小学校が多いんですが、その歴史についてご説明をいただいたり講演をいただいて勉強になりました。

そして6番目が、ついこの間の土曜日にあったんですけども、鼎文化センターで南信地区、諏訪・上伊那・下伊那の定時制通信制に通う高校生の代表が、自分の生活体験を発表していただきました。今日、そのときに参加された高校の同窓会長さんからわざわざはがきをいただいたんですが、そこには「こんな良い会があるとは思わなかった」と、「思わず涙がこぼれた」と。惜しむらくはそこに聞きに来る参加者といえますか聴衆が少ないっていうことでした。とても良い発表だからこそ、それを聞きにみえる方たちが少ないってというのが惜しいなというところでありました。最優秀賞は、飯田OIDE長姫高等学校の四年生ということでありました。また、優秀賞に飯田女子高校の五年度生も選ばれたということでもあります。

以後は、飯田市議会定例会一般質問をまとめました。放課後児童クラブのこと、給食費のこと、そして次のページで生成AIについて、ひきこもり等々に対する地域の取組、香害をはじめとする化学物質過敏症について、それから飯田市の施設の総合管理計画について教職員住宅のことであつたりとか、風越山麓研修センターのことについてご質問やご提言等をいただきました。またお読みいただいでご理解いただければなと思っております。

以上、私からの報告事項でございますが、何かご質問、ご意見等ありましたら。

(「特にございません」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) よろしいでしょうか、ありがとうございます。

日程第6 議案審議(3件)

○教育長(熊谷邦千加) それでは日程第6、議案審議に入ります。本日は3件の議案についてご審議をいただきます。

議案第55号 令和5年度飯田市就学援助費支給対象者(要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係)の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に議案第 55 号、「令和 5 年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは議案第 55 号、令和 5 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、4 ページをお願いいたします。

認定対象者につきましては、別紙でご用意させていただいたとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にて、飯田市就学援助費支給要綱第 5 条第 1 項の規定により、飯田市就学援助費の支給対象者として認定をいただけますようご提案を申し上げます。以上、よろしくをお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明のありました議案第 55 号についてご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

（「特にございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、承認をいただいたとさせていただきます。ありがとうございました。

議案第 56 号 学校運営協議会委員の任命について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして議案第 56 号、「学校運営協議会委員の任命について」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは議案第 56 号、学校運営協議会委員の任命について 5 ページをお願いいたします。

こちらは千代小学校より学校運営協議会委員、小澤正昭氏から新たに関口俊博氏へ変更が生じた旨の連絡がございましたので、飯田市学校運営協議会規則第 7 条第 1 項及び第 2 項の規定により、任命したく提案するものでございます。

任期は、同規則第 9 条第 2 項の規定により前委員の残任期間となります。

説明は以上です。よろしくをお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありました議案第 56 号につきまして、ご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしということで承認ということで進めさせていただきます。

議案第 57 号 教育功労表彰者の決定について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして議案第 57 号、「教育功労表彰者の決定について」。

伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは議案第 57 号、教育功労表彰者の決定について
お願いいたします。

資料 6 ページをお願いいたします。飯田市教育功労者表彰規程第 3 条の規定により、議
案書に記載の 1 番の功労者 6 名、それから 2 に記載の功労者 2 名を功労表彰者として決定
したいとするものでございます。

右側の 7 ページに飯田市の教育功労者表彰規程を添付しておりますが、議案書の 1 に記
載の方は別表 I の 2 の該当者でございます。社会教育委員、図書館協議会委員及び歴史研
究所協議会委員の皆さん 6 名でございます。それぞれ基準にあります 8 年以上その職にあ
った者という基準を満たしていることから今回提案をするものでございます。

2 に関しましては、右側の 7 ページ表彰規程の II の部分の金品等の寄贈寄付者というこ
とで 30 万以上の方ということで、2 名の方を新たに功労者として決定をいただきたいとす
るものでございます。

以上、よろしくをお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありました議案第 57 号につきまして、ご審議をいた
だきます。

ご質問、ご意見がありましたら発言をお願いいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ご異議なしということで承らせていただきます。

これにつきましては表彰に進めてもらいたいと思います。

日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第 7 「協議事項」。

本日は 1 件についてご協議をいただきます。

（1）新文化会館に関する適地調査評価の報告について

○教育長（熊谷邦千加） 新文化会館に関する適地調査評価の報告について。

下井文化会館館長。

◎文化会館館長（下井善彦） それでは新文化会館に関する適地調査評価の報告ということで、本日は資料を別冊で用意をさせていただいておりますのでご覧ください。

新文化会館に関する適地調査評価の報告であります。こちらにつきましては、新しい文化会館の建設候補地を選定するために準備段階として基礎的情報収集に関する調査業務の委託を実施しまして、このほど完了いたしましたので、その報告をいたします。複数の候補エリアに対して調査、分析、評価を行っております。なお、これまでも申し上げておりますけれども、市民会議の整備検討委員会での会議報告はこれまでいたしておりますが、新しい文化会館の場所については、飯田市として責任を持って決定していくということで、今回はその基礎調査ということになるかと思っております。

それでは、まず最初のページをご覧いただきたいと思います。新文化会館の適地調査評価業務委託の報告であります。スライドの1、右下に書いてある数字はこれスライドの1ということですが、ページと言ったりするかもしれませんが、よろしくお願ひします。

このスライドの1は、全体の構成を表わしております。1として基礎的条件の整理、2として適地調査評価、3今後の課題という構成になっております。

スライドの2であります。基礎的条件の整理の（2）として文化施設の現状整理ということで、ここではアンケート分析を行っております。これは令和4年の2月と3月にそれぞれ市民対象と舞台芸術団体対象のアンケートを実施したものをまとめたものでございます。現施設に対する意見として、ホールでは定員について広い、狭い両方の意見がありまして、「客席や音響については不満がある」と、「舞台が狭い」、「大型トラックの取り回しが良くない」といった意見。人形劇場については、音響の点、可動式観覧席の不満、その他としてはやはり駐車場の不満がございました。

次のページにまいります。スライドの3でありますけれども、新文化会館への期待、アンケートの続きであります。ホールのイスの質など先ほどの意見の裏返しといったような回答になっております。

スライドの4にまいります。（3）として、施設整備に関する動向の整理でございますが、類似自治体のホール調べをしております。飯田市と人口が類似する自治体の持つホールの大きさを調べたものでございます。飯田市は上から5行目ぐらいの赤枠に囲ってあると思っておりますけれども、メインホールとしては900席から1,400席程度の規模があることが分かります。

次のスライドの5になりますが、現地建替え等の整備地の分類ということで整理しております。文化施設整備の選択肢として整備地を分類したものです。3種類に分類してあり

ます。同一敷地内、隣接地、全くの別敷地。まず、同一敷地内ですけれども、メリットはご覧のとおりです。デメリットに関しては、近隣に代替する施設がないことから、3年から5年程度、文化芸術活動が止まってしまう恐れがあります。次に、隣接への建替えでございませう。文化施設の空白時間を縮めることは可能ですけれども、工事中の騒音振動の問題と新たな用地の確保が必要というようなデメリットがございませう。別敷地への建替えでは、やはり新たな施設用地の確保が大きな課題となつてまいりませう。

スライドの6にまいりまして、(4) ホール機能特有の条件整理でございませう。①としてホールの特殊構造による諸条件。まずは高さ30メートルという高い建物になることがありませう。これは舞台の上方の装置を納めるものです。また、舞台の下についても、せりを収納したりと地下構造物が必要になることがありませう。

スライドの7にまいりませう。続きでございませうが、②としてはやはり高い静穏性能が求められるという点でありませう。このページの中段から下辺りにかけてございませうけれども、幹線道路や軌道、鉄道が近ければ振動や騒音などが問題となります。「ボックス・イン・ボックス」という手法により解決は可能ですけれども、追加の費用発生が見込まれませう。

次にまいりませう。スライドの8になります、1の(4)の続きになります。③として大型公演受け入れ場合の条件を整理してありませう。舞台の大きさや舞台設備は当然ですけれども、搬入車両として大型トラック、これは11トントラックくらいと言つてありませうけれども、その寄り付きが求められてありませう。

次のスライドにまいりませうが、(5)として施設利用の需要推計をしてありませう。今後の人口動向を予想し需要を推計してありませう。ホールについては、件数よりも利用者数の減少が見られる点、人形劇場については大きな変化はない点などから、人口減少の中にあつても健康寿命が延びると想定し、これらの傾向は続いていくものと推察してありませう。

スライドの10にまいりませう。(6) 必要機能の想定及び必要面積の概算、仮想定でございませう。適地調査に必要な機能の想定として、ここでは大ホールと小ホールを備え、リハーサル室を持つものとしてありませう。必要面積については、用途地域によつても変わりますが、大きな要素としては駐車場をどう確保するか。平面とするのか立体駐車場とするのかで変わつてまいりませう。商業系用途地域の場合には、全体で2ヘクタール、立体駐車場であれば12,000平米あまり、住居系であれば各々さらに大きな面積が必要となつてまいりませう。

次にまいりませう。スライドの11になります、2番の適地調査評価(1) 適地調査評価の基本的な考え方の整理でございませう。4つのエリア設定と適地調査評価の考え方を示し

ております。これまでも説明してまいりましたけれども、具体的評価の場所ですけれども、飯田市版立地適正化計画に基づく4つのエリアを設定しております。まずは①として「中心拠点」ですが中心市街地を指します。市民利用に重きを置く文化施設としては適したエリアと言えます。高さ30メートルの施設の建設が可能です。公共交通機関が整備されている。それから駐車場の確保は課題である。土地の権利者や補償対象となる物件が多く用地取得の難易度が高いことが挙げられます。

スライドの12にまいりますが、続いて②として、「中心拠点近郊」でございます。こちらは中心拠点外周から概ね1キロメートルのエリアを設定しております。法令等により高さ30メートルが確保できない場合が想定されます。公共交通機関も一定程度整備されている状況があり、中心拠点に比べれば駐車場の確保が容易で、自動車等のアクセシビリティは高いものと考えます。一方で、住居地域が多く、周辺地域への騒音・日照などの配慮が必要となります。

スライドの13ですが、続いて③「広域交通拠点」。こちらはリニア駅周辺を設定しております。リニア中央新幹線による交流人口の受け入れの玄関口となります。駐車場の確保が比較的容易であり、国道沿いでもあることから自動車等のアクセシビリティは高い。一方で現状の地区計画では、高さ30メートルが確保できない点、住居地域が多く周辺地域への騒音・日照などへの配慮が必要とされます。

続いてスライドの14、最後に④「その他郊外」です。①から③以外を郊外というようなことになります。高さ30メートルが確保できない場合があります。郊外であるため駐車場の確保が容易で、自動車によるアクセシビリティは高い。一方で自動車以外の交通手段は弱い。住宅地の付近であれば騒音や日照などへの配慮が必要であり、周辺の自然環境への配慮も求められると思います。また、大きなインフラ整備が必要な場合があります。

次に、スライドの15であります、(2)適地候補エリアの現状整理・調査でございます。ここでは具体的な評価項目を示してあります。これについては、もう少し詳細な説明を本日の資料No.3としてA3サイズの縦型の資料がついておりますが、そちらに細かく書いてございます。また後ほどご覧いただきたいと思っております。さて、まず評価項目としては、①として実現性、②として発展性や波及効果、そして安全性となります。1つ目の実現性は、建築法令や立地環境などですけれども、法令関係では先ほど来出てきております高さ制限や日照・日影規制などがございます。立地環境では、駐車場や搬入車両のアクセスや台数、用地の取得や移転補償、周辺環境から受ける影響などがございます。発展性・波及効果では、利便性として公共交通機関、リニアや中央道などの広域利用の視点。社会環境

では周辺施設との連携や周辺生活環境へ及ぼす影響など。安全性では、ハザードマップで災害の可能性を確認しております。

次へまいります。スライドの 16 ですが、こちらは実際のものがこれ字が小さいので、資料No.2として続きにA3の横版で書いてございます。また後ほど説明をいたします。

スライドの 17 へまいります。報告書としては最後のページになりますけれども、繰り返しになりますけれども、本調査は候補地選定に向けた基礎調査になります。評価項目の重要度、項目間の総合的なバランスを考慮して検討を進め、候補地を絞り込んでいくことになります。今後予定されている基本構想・基本計画の策定を進めていく中で、明らかになっていく条件を考慮し、最終的には実現可能性を踏まえて、発展可能性・まちづくりへの波及効果の高い候補地の決定を目指していくことが必要となってまいります。

それでは、これの続きにありますA3の横版になりますけれども、資料No.2ということで用意してございます。時間の関係もありますので、細かい点はまたご覧いただきたいんですが、シートの左上に書いてありますシートの番号1で入っておりますけれども、こちらですけれども、中心拠点のうちJR飯田駅から300メートル以内の地域としています。

続いて次のページになりますけれども、シートの2でございまして。こちらは同じく中心市街地ですけれども、JR飯田駅から300メートル以上の地域としております。

続いてシート3ですが、こちらは中心市街地近郊で中心拠点外周から300メートル以内にしております。

それから続いてその次シート4ですけれども、同じく中心市街地近郊ですけれども、外周から1キロメートルと少し離れます。

続いてシートの5にまいります。こちらは広域交通拠点としてリニア駅周辺を設定しております。

シートの6へまいります。こちらは、その他郊外のエリアで、内循環道路軸の内側の農地を設定しております。

最後はシートの7になりますけれども、シート7はその他郊外のエリアですけれども、内循環道路軸の外側ということで設定をしております。

続いて資料の3ですが、先ほど説明したとおり、評価の考え方をもう少し細かいものが書いてありますので、またご覧いただきたいと思っております。

それから最後にスケジュールの説明をいたします。A4の横版になっておりますが、スケジュールを説明いたします。こちらは昨年も説明したものとほとんど変わっておりませんが、時点修正ということで少し変わっておりますので説明をいたします。進捗状況とし

ては、現在は令和5年度の上半期ということになりますけれども、基本理念がおよそ固まってきたという段階になります。今年度は基本構想をまとめていきます。来年度は基本計画を策定していく予定でございます。幾分事業が押ししておりますけれども、大きな変更はございません。昨年お示した事業プロセスと異なる点につきましては、半分から下、スケジュールの中段辺りですけれども、今回、管理運営計画の策定の行を付け加えております。施設の建設だけでなく、運営についても十分な検討が重要であるというふうに考えるためでございます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま提案をいただきました協議事項につきまして、ご協議をいただきたいと思っております。

ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

野澤教育委員。

◇教育委員（野澤稔弘） すみません、まず説明いただいたのかもしれないんですけど、中心拠点というはどこですか。市役所ですか。

○教育長（熊谷邦千加） 下井文化会館館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 役所的に言うと先ほど言った飯田版立地適正化計画というところに記載があるんですけども、いわゆる丘の上というところ。

◇教育委員（野澤稔弘） その外周から300メートル。

◎文化会館館長（下井善彦） そういう意味です。

◇教育委員（野澤稔弘） はい、ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） さらにほかに。

野澤教育委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） リニアの駅の周辺が候補に挙がっていますが、リニアは相当な電力を使って電流が流れる一つの送電線のようなものなので、磁気によるノイズの評価をしないと、オーディオ機器とか電車が通るたびにブブブだとかってノイズが乗ってしまうような状況になるようであれば、要は磁気を遮断するようなものにしないといけないのかなって思いますので、そういう評価を今のリニアの実験線で必ずやられたほうが良いかなと思います。そうしないと、造ったが使えないみたいになってしまう可能性があるので、場所がどうこうじゃなくて、その評価はいるのではないかなと思います。

○教育長（熊谷邦千加） 下井文化会館館長。

◎文化会館館長（下井善彦） ありがとうございます。

専門的なお話もいただきました。まだ現在は、この中ではその磁気というのは調査項目
というか評価に入っていないです。今後場所はどこにするのかというのはありますけれども、
次の基本計画へ入っていくと実際の建物とか機材とかどうするかって話になってきます。
そのときには、間に合うような話にしていきたいと思います。

ありがとうございます。

◇教育委員（野澤稔弘） もう1個だけ。

○教育長（熊谷邦千加） 続けて。

◇教育委員（野澤稔弘） 内循環道路っていうのはどこなんですか。

○教育長（熊谷邦千加） 下井文化会館館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 口で説明するのは難しいんですけど、南はアップルロード、西
はフルーツライン、北は今度新しくできますけれども、リニアの駅へ降りていく土曾川沿
いの道、東は国道。これを内循環道路と言います。

◇教育委員（野澤稔弘） 分かりました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、さらにいかがでしょうか。

◇教育委員（野澤稔弘） 意見をよろしいでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 野澤教育委員さん、よろしくお願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 造られることに関しては、先日もお伺いして、今の文化会館がいろん
な面でそのまま使うにはまずいという話で、建替えということで伺ってます。

できるならば、飯田らしいものにしてほしいので、例えば東京のサントリーホールとか
名古屋のNHKホールとか、ああいうものをほしって言われてもリニアでそっちへ行け
ば良いので、僕が思うに飯田だったら例えば浄瑠璃とか人形劇とかそういうものをやると
映えるような、世界から集まってこれるような、そういう施設を目指してもらうのがうれ
しいなって思います。

なんかその辺にあって、大きなものでいろいろなものが呼べるって行って造ったとして
も、おそらくそこに呼んで観るよりは東京・名古屋・大阪行って観たほうが良いって私は
思うんですね。中途半端なものを造るのではなくて、「東京では、そんなのやらないよな。」
っていうような、この地域の歌舞伎とか、浄瑠璃とか、人形劇だとかそういうものが公演
しやすく、観やすい、そういうものを造って、たまにはコンサートやってもいいよくらい
の、そういうものが良いんじゃないかなって私は思います。

一市民の意見として聞いていただければと思います。

○教育長（熊谷邦千加） 下井文化会館館長。

◎文化会館館長（下井善彦） ご意見ありがとうございます。

市民検討委員会の中でも、いろんな意見が出ているんですけども、今おっしゃられたような、「確かにリニアができた後のことを考えると、やはり外へ行って観れば良いんじゃないの」という意見も出ています。一般論としては、「来てもらったら」という意見ももちろんございます。まだ結論自体出ているわけではありませんけれども、飯田らしさって大事かなって思いますので、ご意見として承ります。

◇教育委員（野澤稔弘） お願いします。

○教育長（熊谷邦千加） ほかにご意見、ご質問ありましたらいかがでしょうか。

上河内教育委員。

◇教育委員（上河内陽子） まちづくりの観点からも、どうなるんだろう、どんなのが一番良い形なんだろうかというふうに考えている段階なんだと思います。

今、野澤委員がおっしゃったように、やっぱり人形劇のまちであるからには、そういったのが入る舞台というもの、それはすごく大事な観点だなと思いましたが、あとは今までも市民の人たちの発表の場として、飯田文化会館で伊那谷文化芸術祭などが繰り広げられていたんですけども、普段は市民であってもあぁいった場所でスポットライトを浴びて踊ったり歌ったりいろいろな演出活動を発表するというので、市民の活動の場としても使っていけるものができるだろうというふうに期待しております。本当に希望がいっぱいあると思いますけれども、良い形になっていくといいなというふうに思います。

私も楽しみにしております。

○教育長（熊谷邦千加） 三浦教育委員。

◇教育委員（三浦弥生） はい、ありがとうございます。

整備検討委員会 でかなりいろいろお話し合いいただいて、様々な決定内容ですとか話し合いの内容などは、文化会館のニュースレターなどで見させていただいています。委員会の中でこういった新文化会館のあり方といったものが出てきていて、場所に関しては市が検討することということでお話がありましたけれども、これをすり合わせをする時間というものはあるんでしょうか。全くもう離れているんでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 下井文化会館館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 新文化会館整備検討委員会についてはこれまでもいろんな報告をさせていただきましたけれども、こういったあり方、新しい文化会館はこうあってほしいということで、大変いろんな意見をいただいております。

もちろんそれを目指すんですけども、実際にはなかなか現実的なものを見ていかなけ

ればいけないということもございます。ですので、簡単に言うと、実現の可能性と言ったら実現の可能性になっちゃうんですけど、そういったものを高次、高いレベルでのすり合わせというのは必要だなと思っております。

ですので、理想を求めていきますけれども、理想が 100%叶うというものではやはりないだろうというふうには思っております。ですが、市民の方の期待を裏切らないような形のことを考えていきたいというふうを考えてます。

○教育長（熊谷邦千加） 三浦教育委員さんよろしいですか。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

やはり理想というものから差し引いていって核の部分をもどのようにするのかというようなことを検討されているのだろうと思って聞いておりました。こういったあり方というのは贅沢なものというよりは、人形劇ではないですけども、市民が自分たちで作り上げたいといったような文化芸術活動の拠点となる文化会館にしたいという考え方が核にあるのかなと思って、ニュースレターなどを見させていただいております。そういったときにやはり場所というものはとても大切なものですので、ご検討をいただいている方たちの、こういった場所というものに関してご意見をいただくことも大切かなと感じました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 月並みな意見になってしまうかもしれません。

検討委員の皆さんの検討経過なども逐次、発信されていて、そういうのもとても良いなと思っているのですが、今の文化会館が 50 年経っていることを考えると、新しく建てる文化会館も、今後の 50 年ぐらいはこの飯田市の文化の中心として位置づいていくだろうと考えられる。50 年までではないにしても、30 年ぐらい先を想定していくことは重要なこと。今、学校のあり方審議会でも検討している部分ですけど、明らかに人口減少が進んでいくという状況の中でも、文化や芸術・芸能といったものはさらに成熟していくという状況になると思います。規模とか施設の具体的な内容といったことは文化会館の検討委員会の皆さんにお任せするとして、今ほかの委員からも出ていましたけれど、飯田市だけではなくて飯田下伊那地域全体の文化の拠点という位置付けのものになっていくと思うので、環境文化都市飯田の一つの象徴になるようなものになってくれるとうれしいなど、素朴な願いです。

例えば、松本市の「芸術館」建設の案が出たとき、「松本にこんな大がかりな施設を造る必要があるのか」ということで、かなりの反対のご意見等もあったと聞いています。けれ

ども、当時の皆さんが判断をされて、「松本芸術館」を造ったことによって、今、松本市では芸術館を一つの拠点施設として「学・岳・楽」の「ガク都松本」といったキャッチフレーズで、メインのものに位置付いている。自治体の規模が違うので松本のような方法がすべて良いと言っているわけではないのですが、ある部分では反対等のご意見がある中でも、飯田市としてはこういう意味で重要なものなのだという位置付けで進めていくような、そういう気骨のある部分も必要ではないかと思っています。どっちにしても今後 50 年くらい、飯田市に文化会館ありというような文化の拠点となる施設になってくれればというのが願いです。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

上河内教育委員さん。

○教育委員（上河内陽子） すみません、大きな視点から見てアドバイスくれるような方っていうのはいらっしゃるんでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 下井文化会館館長。

◎文化会館館長（下井善彦） どういう視点からっていうことにもよるんだろうと思うんですけども、技術的なことのアドバイスはいただけるとしています。それはこの人に頼めば大体分かるっていうような方はいますが、大きな視点って今の話だと、もっと大きな視点というようなイメージですと、それはやはり我々自身が考えていかなければならないだろうというふうに、これは市長を含めてということになると思います。

◇教育委員（上河内陽子） はい。

○教育長（熊谷邦千加） はい。それではよろしいでしょうか。

どうぞ、野澤教育委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） 先ほど北澤職務代理がおっしゃっていたようなところにもちょっと関連するんですけど、文化会館がヨーロッパで言えば教会のような位置付け。市民がいつもそこに自由に入出りできて、そこでいろんな交流ができるような場所。外から人を呼ぶ催し物というよりも、内発的なこの地域のいろんな催し物や、そういうものが常にそこにちょこちょこあって、みんな楽しめるような、そこを中心に学校だとかそういったものも派生していくようなイメージの文化会館をぜひ造ってほしいなと思います。

タレント呼んで、その人たちが「良かったね」ってやってやるようなのは、東京や名古屋で良いんですよ。ここの文化でここのやりたいことをやれる、そんな大規模じゃなくて良いと思いますね。そんなものをなんか地域の発信力としてもっていくというのは大切なんじゃないかなっていうふうに感じます。

なかなか理解されない部分もあるのかもしれないですけど、やっぱりここが飯田なんだなっていうところをいくつも持っていたほうが良いと思うんです。そのうちの一つとして、何か考えていったほうが良いのかなというふうに思います。

自分の見聞きした経験でいくと、私が飯田に来てすぐのことだったんですけど、八ヶ岳の森の音楽堂っていうところがありますね。ここ西武だったと思うんですけど、西武不動産かなにかが開発して、八ヶ岳のずっと山の上の非常に素晴らしい閑静なところに森の音楽堂を造って、そこのこけら落としにリヒテルが来たんですよ。そういう注目をする場所だったんで、夏も冬も、一年中ずっといろんな人たちが来て、併設されているホテルと一緒に一泊二日で音楽家と交流ができてみたいなものすごい人気のあるプログラムがたくさんあったんです。でも、潰れちゃったんです。それだけ人気があっても。私もいくつか行きましたけど、確かにすごく楽しいんですね。素晴らしい企画がたくさんあって、でも駄目になった。何でかっていったらやっぱり外から呼んでお金をかけたからですね。今でもやっているんで行けば良いなと思いますけど、でも経営的には全然だめだったっていう。

そういうことを考えると、地元の人たちが使って、小学校の子どもたちがいっぱい使って、「ちょっと今日人形劇の練習しようよ」って、そこへ行って授業の一環で人形劇の練習してみたいな、そんなことが頻繁にできるような、何かその本当に飯田の文化の中心になるもの。ヨーロッパで言えば教会ですよ。全ての中心がそこにあるような、そんなまちづくりっていうのを考えてもらいたいなというふうに思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 下井文化会館館長。

◎文化会館館長（下井善彦） ありがとうございます。

今、基本理念が大体固まってきたって先ほどお話ししましたが、まだ仮ということではあるんですけども、「みんなが集い、創り 伝える 感動の飯田ひろば」っていう、これが今の仮ですけども、基本理念でございます。

今お話いただいて、これも整備検討委員会の皆さんの意見と同じことを言っていたいなと思ったんですけど、この「感動の飯田ひろば」。先ほどお話にあった教会ですね。教会ってわけにいかないですけど、その前にあるひろばですけども、「感動の飯田ひろば」っていう部分もまさに整備検討委員会の皆さんが考えているようなイメージが、野澤委員のおっしゃったような多分イメージなんだというふうに思います。形は分かりませんが、これがぜひ実現できるようにしていきたいなというふうに思います。

ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 貴重な意見をたくさんいただいてありがとうございました。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第8に入ります。陳情審議でございます。今回、陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程第9、その他に入ります。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）「教育委員報告事項」。

それでは報告事項がおりになる教育委員さんから、順番はいつものとおりでございますが、用意のできた方から結構でございます。

野澤教育委員。

◇教育委員（野澤稔弘） 9月7日に旭ヶ丘中学校で行われた教育課程研究協議会に参加させていただきました。

私自身は、開式のところのみの出席だったんですが、内容は美術科でランプシェードづくりをやっている様子を見て、その後半戦が始まったところのようでした。結構工夫されていて、そのランプシェードの基本的な形なんかを動画でこんなふうにとこんな形になるよっていうのを6パターンだったかな、紹介をされていて、それを生徒たちが見て、そういうのを参考にしてランプシェードを作っていた。ランプシェードを作る前に、自分がこのランプシェードをどういうシチュエーションで使ったら良いかっていうのをちゃんと描かせて、そのランプシェード作りをして実際にちょっとブラックボックスのようところでそのランプシェード、光の状態を自分で見ながら作り直すっていうことを繰り返してやられていて、非常に高度なことをやっているなと思いました。

引き続き9月11日に伊賀良小学校へ主幹指導主事の帯同で行ってまいりまして、大規模校としてのいろんなメリット・デメリットありますねっていう話が出てましたけれども、ちょっと記憶に残っているところで印象的だったのが、事務職の方が今年ベテランの方と新人の方が2人いるらしくて、来年新任の方が独立をするみたいな話になっていて、「そう

なったときに近くの学校で良いので、なんか困ったときに相談できるような仕組みがあると良いですね」っていうような話を今のベテランの方がおっしゃっていて、「なるほど、そうかな」というふう感じた次第です。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

次は、上河内教育委員さんお願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 3つ報告させていただきます。

1つは9月7日、西中に教育課程研究協議会に行ってきました。音楽でシューベルトの「魔王」というのを教材として、詩と音楽の特徴と関わりを感じ取ろう、聞こうという鑑賞の授業でした。

野澤委員も「動画で」というふうにおっしゃってましたけれども、こちらでもタブレットで自由にその音楽を一人一人聴けるように工夫していただいております、子どもたち同士でグループになって登場人物の心情や音楽の特徴を語り合う、思い思いのグループトークというものを見ることができました。タブレットが上手に使えているなど感じました。

もう1つは、9月18日、昨日ですけれども、これは私が個人的に伊那谷自然友の会というのに所属しているので、その主催のイベントとしてかわらんべの「わくわくフィールドたんけん」というイベントにスタッフとして行ってまいりました。昆虫とか鳥、岩石、花、水生生物の5つのコーナーをつくって、河川敷にそのコーナーで外を親子が歩き回ってビンゴをするっていうことで、一つ一つのシートにこれを探してみようっていう、見つけたらシールを貼って行って、列が揃ったらビンゴだよっていうような遊びですね。

それで私は花コーナーを担当したんですけれども、河原には今、ワレモコウとかマメアサガオとかクルミがすずなりになっていたりとか、いろんなものを見ながら親子で「あった」、「ここにもあった」というような感じで風を受けながら気持ちの良い青空の下で体験をするという企画で、とても気持ちが良いなと思いました。河原の脇には穴がポコポコ空いていて、そこから蛇がニョロニョロっと出てきて、みんなが「ワー」とか言って、そういうのもまた楽しいなというふうに思いました。こういった経験ができるのは、本当に地の利を生かしたこの飯田の素晴らしい環境のおかげだなと思いました。環境を生かした体験、良い機会をいただきました。

もう1つは、飯田市民大学講座の第1講でお話をされる長谷川善和先生のインタビューを、これも伊那谷自然友の会の会報誌のためにインタビューをしてきました。3時間くらいお話を聞いたんですが、この先生は飯田市の千代の出身なんですけれども、日本にはま

だ恐竜がいるとは思われていなかった 1970 年頃に、立て続けに 3 つ日本で見つかった恐竜の化石を鑑定して、日本には恐竜がいるんだというのを世に広めた先生で、恐竜研究の第一人者と言われていても良いのではないかとこの先生です。そんな先生が今、93 歳になられるんですけれども、飯田市に帰っていらっしゃって、美博の顧問をしてくださっております。

研究の現場に行ってみたところ、先生は毎日のように化石を掘り出したりしているんですけれども、今もなお、まだ未発表で、新種の昔の鯨の化石がありました。そういったものをたくさんもう何万点と長谷川コレクションがあるんですけれども、この長谷川先生の思いとしては、田中芳男がいろいろ希望を持って博物館というものを志したわけけれども、飯田にはもっともっと良い博物館があっても良いんじゃないかということで、ご自分のその 100 年近くかけて集めてきた自分のこのコレクションを飯田で生かしてもらいたいという思いが強くおありでした。「二度と集めることができない、散逸してしまっってはもう集めることができない資料だ」ということで、確かに資料を保存していくということが大事なんだなということを考えさせられたインタビューでございました。市民大学の第 1 講を楽しみだなというふうに思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。さらにございますか。

三浦教育委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） 準備してなかったんですけど、上河内委員のお話を聞いていて 1 点思い付きましたので、報告させていただきます。

この間の 15 日の金曜日に学生 11 名と飯田美術博物館からスタートしまして、ぐるっと菱田春草の足跡を巡るということをしてきました。

飯田美術博物館で今の長谷川先生による展示をしているということで、恐竜についても見てまいりました。こんなお歳の大きい先生がまだご活躍されているんだということで、学生も菱田春草を見にいったんですけれども、そちらも真剣に見ておりました。

菱田春草につきましては、学芸員の小島先生にお世話になりまして、1 時間ほどご講義をいただいて、今、菊慈童が出ておりますので、菊慈童を見させていただいております。

また、プラネタリウムも 1 時間ほど私たちのために組んでいただいて、菱田春草のものが 2 点と田中芳男のものを 1 点、あとはりんご並木の 10 年前の 60 周年記念イベントのもの、そしてその日の星空ということで、とても有意義にいろいろ解説いただいた後に、菱田春草の絵を実際に見させていただいて、解説の後でしたので学生も長時間、菊慈童の眉

毛の立っているところまで印象的でした。その後、柏心寺へお墓参りをさせていただいたり、りんご並木を通ったり、裏界線も通らせていただいたりと、最後は菱田春草の生誕の地まで行って、美博まで戻ってといった形でした。

柏心寺の檀家さんだよってという学生も、「菱田春草のお墓があることを知らなかった」って言うくらいでして、地元の子も、また地域外の子にも飯田市に興味をもってもらえた。そんな一日だったかなっていうふうに思いました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

では、北澤職務代理をお願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 9月7日の中学校の教育課程研究協議会、鼎中の理科へ行かせていただきました。先生方43名、飯伊地区の中学の理科の先生がほぼ全員集まっている、大規模な集まりの研究協議会でした。コロナのことも心配だったのですけれど、クラス35人の中学生に43人の参観者ということで、大きな理科室でしたが、本当にいっぱいというような状況でした。

子どもたちが9グループで学んでいるところ、先生方も9グループに分かれてもらって、その1つのグループに先生方も最初から最後まで張り付きで子どもたちを見させてもらえるというような授業でした。物質の溶解と再結晶の様子を観察して、それをモデル図で友達に説明しようという授業でした。先ほど2人の委員さんと全く同じで、生の実験のところだけで十分に理解できずに見落としている部分は、同じ場面を先生が動画に撮ってあって、その動画をタブレットで何回もゆっくりスローにして結晶が浮かび上がってくる様子を見ながら、それを自分なりにモデル図で表すというところで、タブレットが有効に使われている場面を見せてもらいました。

対面でやるのは4年ぶりの授業参観、研究協議ということで、郡内の先生方、同教科の皆さんが一堂に会して課題とか教材研究のノウハウを協議しあっている様子は、ちょっと変な言い方ですけど、若い先生方、新卒で来た若い先生方はこの4年間そういう機会すらなかったわけですので、それが本当にしばらくぶりに同じ教科の専門性を持った先生方が、若手からベテランまでが一緒になって、一つの授業や子ども一人一人の動きを見ながら協議する。とても新鮮で、心なしか先生方がうれしそうな表情をしているなどと思って、結局研究協議が終わる昼までずっと一緒に参加させていただきました。特に若手で小規模校、要するに教科会が成立していない小規模校の先生にとっては、普段は一人で運営しなければならないのに、ベテランの先生方の意見や、子どもの見取りの様子なんかの意見が聞けたりするというのは、とても大事な機会だと思いました。

働き方改革を進めていく上で、いろいろなものを精選しなければならない。そういうことではあるが、教職に就いた方が自分の教科の専門性を磨くという、そういう機会のところを生かすために、ほかを精選するという発想でいてほしい。こうした機会まで全部精選していくという発想ではなくていてほしいということを改めて思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

教育課程研究協議会は議会で行けなかったわけですが、ご報告いただいたことで非常にイメージが湧きました。教育課程研究協議会では、先生方とするとある意味、理想とか目指す授業みたいなものを見る機会にもなるという大事な研修だなということを、改めて感じたところでした。ありがとうございました。

何かご質問、ご意見等ありましたら。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは続きまして、（2）「教育次長報告事項」。

◎教育次長（秦野高彦） ございません。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（3）「学校教育課関係報告事項」。

それでは福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それではアでございます。飯田市これからの学校のあり方審議会についてですが、こちらは特に資料等はございませんが、来週9月27日水曜日の夜7時から第3回を行う予定です。

内容といたしましては、学識経験者で市民会議の委員でもございます坂野先生、井出先生から各地の事例報告等をいただき、委員の皆さんと意見交換を行う予定であります。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、麦島係長。

◎学校教育課教育支援係長（麦島 隆） お願いします。資料No.2、8ページをお願いいたします。特別支援教育・学校支援等に関する上半期の報告をさせていただきます。

まず、特別支援教育にかかわる研修や会議、学校訪問などについて取り組ませていただ

いたことについて、記載させていただきましたけれども、その中で今年度の取組としては、5月9日、第1回の特別支援教育コーディネーター連絡会を研修会を兼ねて実施させていただきました。

こちらは事務局からの連絡であるとか、就学相談委員会からの事務的な連絡をさせていただきましたけれども、これまではこのような会を設けておらず、文書にて確認をいただいておりますが、参加していただいた先生から「年度当初に直接説明をしてくれたことでとても良かった」というような声をいただきましたので、また継続していきたいと考えております。

また、下にいきまして、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、地域支援事業の2年目、最終年度ですけれども、取り組んでおりまして、6月22日・23日に統括研究員の伊藤先生が視察に来られまして、午後、参加いただいたり、また次のページに8月3日に研修会を行ったんですけれども、来ていただいた伊藤先生が飯田の様子を交えながら研修・講義をいただくことができました。また、8月24日は、地域支援事業の中間報告ということで、私から報告をさせていただいております。

あとは8月2日には、総合教育会議ということで、教育委員の先生方には大変お世話になりました。ありがとうございます。

その他ですけれども、昨年度末の副学籍交流に関わるアンケート、こちらをまとめさせていただいて、各校へ4月に配布させていただきましたが、各校の取組方が様々ですので、このようにまとめて配布することで、他校の様子を参考に見ていただくことができたかなというふうに思っております。

2番にいきまして、学校支援に関わる取組ですけれども、支援会議であるとか関係者会議に参加をさせていただきました。また、校内研修を3校のところで「通常学級における特別支援教育の推進」というテーマで依頼がありましたので、こちらで話をさせていただきました。

あと最後に書かせていただいた「わたし（私）たちの飯田市」という副教材の冊子があるんですけれども、こちらの冊子の改訂年度になっておりまして、今年改訂委員会を設けて現在、改訂を進めて、来年度当初に配布する予定で動いております。

次のページですけれども、これは先ほど紹介させていただきました特別支援教育にかかわる学校訪問や研修会を通して気づいたことについてまとめさせていただき、次の校長会にてお知らせする内容でございます。

まず、1つ目ですけれども、学びの場の充実に向けた自立活動の充実についてです。こ

こちらは特設の自立活動の時間を学校体制で工夫して設けていただきたいということや、大半の時間を交流及び共同学習として通常学級で学んでいる児童生徒さんには、その学びが充実しているかを把握して時間の調整であったり、学びの場の変更を検討してくださいということ。あと一人一人の実態等に目を向けて、各種計画を用いながら丁寧に検討をしてくださいということをお願いをいたしていきます。

2つ目ですけれども、特別支援学級と通常の学級との連携についてであります。こちらは先ほども申しましたが、通常の学級での交流及び共同学習を行う場合に、その授業内容が分かり学習活動に参加している実感、達成感を持ちながら充実した時間を過ごしているのかという視点を大切にしていきたいということ。もう1つは、特別支援学級に在籍しているお子さんが、通常の学級で生活・学習する際には、特別な支援であるとか合理的配慮の提供が必要となりますということ。あと、通常の学級においても、特別な支援を必要とする児童生徒が一定数いることを前提して取組をお願いしたいということについてであります。

3つ目ですけれども、二次障害への懸念についてです。発達障害のあるお子さんが、通常の学級で生活する場合、ほかの多くの子どもたちと同様の活動を求められてしまうことが多くなりがちです。ですので、そういったお子さんに対して二次障害となる前の適切な教育対応であるとか、特別な支援を早期に開始できるような体制をお願いしていきたいということでもあります。

次に、2のところですが、支援の充実と関係機関との連携に向けて。こちらは主に個別の教育支援計画であるとか、指導計画について書かせていただいております。保護者との合意形成であるとか、ただ計画をつくることが目的とならずに、対象のお子さんの支援や指導にぜひ生かしてくださいというようなことをお願いしてまいります。

最後ですけれども、その他の連絡として、園から小へ「引継ぎシート」が届くことがあるんですけども、その利活用についてのお願い。

また、先ほども申し上げましたように副学籍の交流及び共同学習について、直接交流のない先生や保護者の方への啓発等もぜひお願いしたいということで、伝えてまいりたいと思います。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加）　続きますして、木下教育指導専門主査。

○学校教育課教育指導専門主査（木下耕一）　お願いします。

外国語教育及び学力保障・学力向上の取組についての上半期をお願いします。12 ページ

になります。担当の木下と申します。よろしく申し上げます。

まず、外国語教育についてです。外国語教育では、資料の図にありますように、外国語で考えや気持ちを伝え合うことができる児童生徒の育成を目標に、様々な取組を行っております。ここでは取組の4つの柱を中心にその様子を説明させていただきます。

まず、学校訪問についてですが、1学期に市内全ての小中学校を訪問し、助言や支援を行ってまいりました。その際の主な視点は、文科省「令和の日本型教育」の中で示されています「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」です。外国語は小学校五年生から中学校三年生、全ての児童生徒の1人1台端末に学習者用デジタル教科書が配備されて今年で2年目になります。これまでの教師主導による一斉授業中心の授業スタイルから学習者用デジタル教科書を活用した個別最適な学びと対話的で深い学びを目指した授業へと授業のスタイルはアップデートしていくことは現場の先生方にとっても大きな変化の時です。そこで教育委員会では、担当者間で協力しながら学校での研修や支援を引き続き行っております。

学校訪問の際の様子を少し写真にて紹介させていただきます。1番の写真では、小学校五年生が個人用端末で自分の学習者用デジタル教科書で月や日付の単語を自分で練習して、その後ペアで習得具合を確認している場面です。

資料の写真の2も五年生になりますが、各自で練習をした後、インタビュー活動をするというような場面です。

写真3は中学生になります。こちらは教科書の本文の音読練習をしているところですが、自分で本文の一部をマスキング機能で隠して音読練習をして、その成果をペアで発表しあっているという場面です。

これらの写真のように、これまでは先生が中心となって進めていた練習活動が、学習者用デジタル教科書を使うことで、自分に必要な練習を自分のペースで取り組むことができるようになってきました。もちろん練習活動の目的は、言語活動、つまりコミュニケーション活動を行うためにあります。例えば写真4のように、ICTの特性を生かすことで、多様な他者と関わるコミュニケーション活動も可能になっていきます。

こういった授業スタイルが今、市内の教室で徐々に浸透しつつあるという現状です。一方で、パソコン操作が苦手な先生や経験が少ない先生からは「どのように使用したらよいか分からない」といったような声もあり、市教委としましても先生方への支援と研修は引き続き行っていきたいと考えています。

今年度はその一つとして、学習者用デジタル教科書の具体的な活用方法とその効果につ

いて実証研究を行いました。詳しくはICT担当の櫻田より後ほど説明いたします。

続けて資料をご覧ください。資料 13 ページになります。学校訪問では授業参観後、外国語教育担当の先生とオンラインでリフレクション等を行いました。小中の先生と一緒に行うことで、校種をこえて授業実践の共有を行うことができました。また、必要に応じて私がモデル授業を行い、授業のイメージを持ってもらうというような取組もしております。

先生方への支援として、市主催の研修も行っております。各校の外国語の担当で外国語教育推進委員会を組織し、情報交換や研修の場としています。夏休み中には、信州大学の酒井英樹先生にお越しいただき、付ける力を明確にという視点から講義を受け、ワークショップに取り組みました。

次に、ALTについてです。飯田市では 10 名のALTを直接雇用しております。出身校は7カ国と国際色豊かなメンバーです。中学校区内の小中学校を兼務するということで、小中連携の外国語教育のつなぎ役を担ってくれています。小学校で一緒に学習したALTの先生が中学にもいてくれるというのは、子どもたちにとっても安心した学習環境の一つとなっています。市では、月1回ALTの定例会を開いて、ALTの研修や情報交換等を行っております。

ALTの活用という面から、次のページをご覧ください。教室外でも外国語に慣れ親しむ機会をつくるという目的から、小学校では令和3年度から、中学校では令和4年度からALTによる英語交流イベントを行っております。今年度も10月・11月に小学生対象の「English Day」を、12月には中学生対象の「Jibun English」を企画しています。写真は昨年度の様子です。

資料その下、外国につながるのある児童生徒への支援についてですが、飯田市内には6つの学校に日本語教室が設置されております。それ以外の学校に在籍する児童生徒は市費職員の日本語指導員が支援に入っております。また、通訳や翻訳が必要な児童生徒及び保護者には、市費職員の共生支援員が支援を行っております。こういったサポートに対し、学校現場からは「大変ありがたい」というお声をいただいております。

続けて学力保障・学力向上の取組について説明いたします。飯田市では、中期重点目標に向けたアクションプログラムの中に、学力保障・学力の向上を掲げています。飯田市の全ての子どもたちと学力保障・学力向上を願って、飯田市研究主任会を組織し、授業改善の一層の推進を目指しております。今年度の取組の柱は、学力の見える化、より具体的な取組へ、取組の見える化の3つです。

1つ目の学力の見える化についてです。これまでも実施しておりました学力検査ですが、

今年度よりベネッセの総合学力調査を実施し、全国学力・学習状況調査も含めれば、小学校二年生から中学校三年生までの全ての段階で、子どもたちの学力が把握できるようになりました。特に総合学力調査では、学校も本人も保護者も3年間の基本とした経年で結果が把握できることや、個人票に本人の解答用紙が掲載されるなど、これまでに比べて学習の状況が把握しやすくなっています。また、その結果を具体的な支援や指導にどうつなげていくかということについては、飯田市の研究主任会で分析や実践の共有を行うことで取組を進めているところです。

加えて読解力についても、学力の見える化の一環として、今年度は市内小学校の五年生でリーディングスキルテストを実施しました。リーディングスキルテストは、文章を正しく読み取る力を測るテストで、読み取りのプロセスにおける、つまづきを把握するテストです。今年度既に一学期実施し、各校には結果が返却されているところです。教育委員会内でも分析を進めて、向上に向けてどのような取組ができるかということを検討しているところです。また、市内の先生方と自主的研究チームを立ち上げ研究を進めていきたいと考えております。

資料のその裏面は、飯田市の研究主任会の取組になりますので、ご覧ください。

以上になります。

○教育長（熊谷邦千加） 続いて、櫻田教育指導専門主査をお願いします。

○学校教育課教育指導専門主査（櫻田誠二） お願いいたします。

私からは、資料No.4、飯田市学習におけるICT活用の令和5年度の上半期のまとめについて報告させていただきます。ここからはページ番号ではなくスライド番号、りんご中の数字で説明をさせていただきます。

まず初めに、全国学力・学習状況調査、学校質問紙のICTに関わる内容の分析についてです。スライドの3は、内容の見方になっております。左上に令和4年度から令和5年度の経年変化、右上に小学校と中学校の結果、下にグラフ・表からの分析を載せてあります。たくさん項目がありますので、今回は要点を絞って紹介をさせていただきます。

スライドの6をご覧ください。「必要なサポートが受けられていますか」という項目については、令和4年度に比べ肯定的な回答をした割合が増加しました。サポートサイトの作成、支援体制の見直しが先生方のサポートにつながっていると思われます。県や全国と比較すると、飯田市の数値はまだ下回っていますので、先生方の声を聞いて必要なサポートをより充実させていきたいと考えております。

スライドの7です。「授業でどの程度活用しましたか」という項目ですが、令和4年度に

比べると「ほぼ毎日」と回答した割合は少し減りましたが、「ほぼ毎日」・「週3回以上」と回答した学校の合計が100%になりました。学校間の活用の差は昨年と比べると小さくなったと考えられます。

スライドの11です。「児童生徒がやり取りする場面での活用」についてです。令和4年度と令和5年度を比較すると上位2項目の合計は少し増えましたが、「ほぼ毎日」と回答した割合が減少しました。昨年度学校全体で同時共同編集の機能を用いた意見共有の研修を行った小学校が複数あり、小学校の「ほぼ毎日」の数値は県や全国よりも高くなっていました。

次にスライド12です。「家庭で利用できるようにしているか」という項目です。令和4年度と令和5年度を比較すると、上位3項目の合計にあまり変化は見られませんでした。一方「毎日持ち帰る」という割合が増加していました。一方で「学級閉鎖等の非常時のみ」と回答した小学校が2割ほどありました。端末の持ち帰りに関しては、頻度だけでなく英語外国語科での活用や基礎学力向上、基礎的読解力向上、情報モラルの日常的な学習など、内容の充実を図る必要があると考えています。

スライド13はまとめです。今回の分析は学校質問紙によるものなので、9月末に実施予定の児童生徒、教職員のアンケートで現状把握、課題分析を行っていきたくております。今後は、管理職やICT活用中核教員、研究主任などの校内でリーダーシップをとる立場の職員の研修と、苦手意識を持った先生を対象とした基礎的な研修の両方を大切にしていきたいと考えています。

次に、スライド14から20の職員研修に関することです。5月に転任・新任者向けのICT活用基礎研修、8月にICT活用スキルアップワークショップを行いました。内容や教科、参加者の声などを載せてありますので資料をご覧ください。

次にスライドの21から30、上半期に行った取組について紹介をさせていただきます。

スライド22、ポータルサイト・サポートサイトを4月から本格的に運用を始めました。

スライド23、保護者同意書をフォームでの回答にし、デジタル化しました。

スライド24、修理・破損の注意喚起のチラシを作成し配布しました。

スライド25、他市の情報漏洩の事件を受け、飯田市では情報漏洩対策として教員はGoogleアカウントの2段階認証を必須にしました。

スライド26、夏休み前に人工知能生成AIの注意事項のチラシを作成し配布しました。

スライド27、校務パソコンのアップデートを夏休み中に行いました。

スライド28、アクセスログの解析を行い、気になる検索については、学校に情報共有を

しております。例えば夏休み中に「自殺」というキーワードを検索した児童生徒は176名おり、該当の情報は学校に提供し話を聞くなどの対応をしていただいております。

スライド 29、各校の持ち帰り申請の方法を今後変更の予定です。これまでより持ち帰りの目的や実態を把握できるようになると考えております。

スライド 30、「C a n v a」というソフトの自治体登録を行いました。学校で使いやすいソフトやサービスは教育委員会でシングルサインオンの認証などを一括で登録し、先生方には負担をかけずに便利な環境を整える努力をしております。

次にスライド 31・32 です。発達段階に合わせた情報活用能力の育成と日常的な情報モラル教育の充実に向けてです。学習における I C T活用の推進と同時に心がけているのが、安心安全に端末を活用するための情報モラル教育、またはデジタル・シティズンシップ教育、それらを含む学習の規範となる情報活用能力の育成です。専門家による講演会を全ての学校で行うことに加えて、今年度は日常的な情報モラル、情報活用能力の育成を目指して2つのデジタル教材をトライアルしています。先日、長野県教育委員会こころの支援課から「G I G Aワークブック信州」という教材が提供されましたので、こちらも今後サポートサイトで紹介をし、活用を進めていく予定であります。

次にスライド 33 から 36、同時共同編集を用いた考えを広げ、深める対話的な学びの実現に向けてです。今年度も専門家東原先生による学校訪問を行っております。令和3年度から始まって3年目になりました。今年度は11校に計27回訪問の予定で、一学期中に全ての学校に1回以上の訪問が済んでいます。学校訪問の様子、内容は I C Tレポートにまとめ、ポータルサイトで紹介をしていきます。先ほど紹介をした全国学調の項目でも、児童生徒がやりとりする場面での活用は、県や全国の結果を多く上回っていました。東原先生の学校訪問の成果だと思っております。

次に、スライド 37 から 43、学習者用デジタル教科書を用いた自律した学習者の育成及び個別最適な学びの実現に向けてです。先ほど木下から報告があったように、今年度は英語担当の木下と I C T担当の私で協力をして、授業改善に向けた取組を行っております。飯田市では、今年度全ての学校で外国語英語、約半数の学校で算数・数学の学習者用デジタル教科書が利用可能になっています。

スライド 38・39 をご覧ください。現状では全ての学校で利用できる外国語英語の学習者用デジタル教科書の効果的な活用や授業モデルを提示していくことが、学校現場の先生方のサポートになると考え、今年度は浜井場小学校の協力を得て、学習者用デジタル教科書の活用を取り入れた授業づくりを行っていました。これまでの一斉指導中心の練習活動を、

学習者用デジタル教科書を活用した個別学習中心の練習活動に変えて、学習語彙の習得と主体的な学習態度の育成に与える効果を検証しました。

スライド 40 をお願いします。今回は、友達に誕生日カードをあげることを目指す単元とした、月・日付などの単語が登場します。単元の前半・中間・後半に自信を持って言える単語の数と主体的な学習態度を図るアンケートを実施しました。

スライド 41 からは結果になります。月の名前、日付の読み方、どちらもデジタル教科書を用いた個別学習時間を導入した後が習得した語彙数が伸びました。

スライド 42 は、最初の段階で上位層・中位層・下位層、3つに分類した場合の変化のグラフです。上位層は、授業スタイルに関係なく習得語彙が増加しています。中間層と下位層は個別学習時間導入後に習得した語彙数は大きく伸びました。

最後にスライド 43、主体的な学習態度の育成に与える効果を検証した調査の中から、授業の進め方に関する結果を紹介いたします。「授業を進めるのは先生ではなくて自分だ」と思いながら学んでいる児童の割合が増加しました。また、「学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる」と感じている児童の割合も増加しました。学習者デジタル教科書を用いた個別学習時間によって、児童生徒が外国語の授業にこれまでより主体的に取り組み、習得した語彙数が増加するということが見えてきました。

下半期は、中学校での検証や端末を持ち帰って、家庭で取り組むことの効果を検証していきたいと考えております。

私からは以上です。ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） 学校教育課関係報告事項、盛りだくさんでございますので、ここでご質問、ご意見等ありましたら承りたいと思っております。

野澤教育委員。

◇教育委員（野澤稔弘） 前からちょっと疑問に思っていたんですけど、ベネッセの学力調査ってなってますけど、私企業ですよね、ベネッセって。そのベネッセの恣意的なものが入っていない担保というのは文科省取っているんですか、何か。非常に悪い言い方すると、ベネッセの言いなりと言っちゃ変だけど、良いように学力調査をやればベネッセの意図としての学力調査が出てきて、それに対して教育をこういうふうに行きましょうってなっていくと、国の教育としてそれで良いのかなと思うので、そういうことをきちんと文科省は担保しているのかなってちょっと気になったんですけど。

◇教育委員（野澤稔弘） 今井学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） ベネッセもかつて全国学力・学習状況調査を請け負ってやって

います。基本的にはベネッセの総合学力調査の内容を見て、N R T・C R Tを今までやってきたものですから、それと比較をして、どちらかというとなベネッセの方が全国学力・学習状況調査の問題に近かったものですから、そういったことでベネッセの総合学力調査を今年度から採用しています。

ですので、ベネッセに操作されているっていう状況ではないと思います。教育委員会として検証をして採用しました。

○教育長（熊谷邦千加） 補足すると、ベネッセは評価とか採点とか、そのシステムの部分をベネッセを中心としてやっていて、それは全国学力・学習状況調査もベネッセがずっとやっているわけじゃなくて、内田洋行とか、やはりその処理ができる企業は大きくないといけないっていうこともあります。そういった成績処理とか結果報告とかっていうシステムの部分はベネッセが中心になってますが、問題自身は文科省の調査官等が中心になってつくっているので、内容についてはベネッセがそれをどうこうしているっていうことではないと思います。

◇教育委員（野澤稔弘） 分かりました。

○教育長（熊谷邦千加） 今回の活用も、ベネッセを使ったのは受けた子どもたちにとって、その結果が返ってきて、自分の課題とかやるべきことが見えてくるっていうこのシステムが、非常に子どもたちが自学自習、主体的に学ぶ方向性に合っているから良いんじゃないかと。付け加えて全国学調との親和性もある程度あるというようなことからベネッセを選んだというふうになっております。

◇教育委員（野澤稔弘） はい、ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 時間もないので2点です。教えてください。

1点は、この資料でいくと18ページ、19ページのところです。19ページから22ページぐらいまでのところの調査結果の中学校のところ。特に20ページのところが一番関わってくる部分です。例えば20ページ、「調べる場面での活用」といったようなところ、中学校「ほぼ毎日」が0%というところが、いくつかの項目で続きます。要するに飯田市の場合でいくと「ほぼ毎日」は0%なのだけれど、週3回以上のところにいくと圧倒的に数値が上がって、逆に月1回以上とか月1回未満とか、そっち側は全部0になる。そのところをどう解釈するか、今後どんな方向に持っていきたいと考えていらっしゃるか。

学調の結果とすごく似たようなところがあって、失礼な言い方になるけれど、苦手と言

っている先生方ではあるけれど、全く使わないでいる人はいない。でも、毎日使っている人もいない。まさに学調の結果の「中の上」は多いが、「上」は少ないというのとちょっと似ているようなデータになっている。ここのところをどんなふうに解釈されていて、今後どんなふうに進めていこうとされているのかというのが1点です。

もう1点は、37 ページのところ、浜井場小学校で調査されたというのですが、非常に画期的なデータというか、注目するデータだと思って見えています。これについて今後ほかの学校への共有の仕方、広げていき方、その辺をどんなふうに考えていらっしゃるか。

今日初めて見たので、細かいことを言えなくて恐縮ですけど、37 ページのこのデータはすごい結果だなと思って見たので、今後の取扱いを教えてくださいとありがたい。

○教育長（熊谷邦千加） 櫻田教育指導専門主査。

○学校教育課教育指導専門主査（櫻田誠二） お願いします。

まず20 ページからの中学校が「ほぼ毎日」が0%ということに関してですが、まずそもそも頻度を上げることが目的ではないというところが大前提にあって、やはり授業改善が進んでいくと、それに伴って使われる割合が増えていくというところなので、私としては数字を毎日にしたということより、授業改善の中身がしっかりできていれば自然についてくる場所じゃないかなと思います。

一方で、下が0%ということは、現段階においては差が出てないということなので良い傾向だと捉えております。

また、これは学校質問紙の結果ですので、おそらく、ほぼ多くの学校が、教頭先生が回答されているということで、結局先生方によっても個人差があったりクラス差があったりしたときに教頭先生がどこで答えるかというところで、真ん中をとるんじゃないかなというようにも考えております。

次に、学習者用デジタル教科書の結果についてですが、私としても思ったより効果が出たというか、データが分かりやすく出ました。しかし、浜井場小学校の五年生なので、結局人数としては20人いないというようなデータなので、データの数をもう少し増やしたりだとか、または今後検討しているのは先ほども言いましたが、中学校での別の使い方というようなところも確かめながら、より効果的でまずこういうところからスタートしてみたらどうですかという、先生方がやり始めやすい、モデルみたいなものをつくってみたいかなと思っています。

今回は授業を丸々変えたのではなくて、授業の中に元々あった10分程度の練習時間、これを個別の時間に変えたという、ただそれだけですので、始めるところとしては一番手を

付けやすいところなんじゃないかなと思っております。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 今後それを広げるというところは。

○学校教育課教育指導専門主査（櫻田誠二） 効果があれば広げていきたいなと思っておりすが、まだいかにサンプルが少なかつたりってところなので、広げつつ、サンプルを増やしつつ、検証を続けるという、そんなイメージです。

○教育長（熊谷邦千加） 木下教育指導専門主査、加えて何か。

○学校教育課教育指導専門主査（木下耕一） 私も実際に櫻田主査と一緒にやらせてもらって、中から下位層の子たちにとってすごく有効なんだなということが改めて分かりました。単元の中のある授業で、目の前の男の子が自分で練習していく場面がありました。

日付でいうと 30 日って英語で言うのは難しくて、「t h i r t i e t h」って 30 日に「t h」をつけるととても難しい発音になります。それを何度も何度も自分で練習して最後できるようになっているという場面を見て、このように自分で学ぶという学び方ってとても大事だなって改めて思いました。そういったところは今までも伝えてきたんですけど、具体的な例をもって一層伝えられるなあと思っています。

この研究の様子は、日本デジタル教科書学会でも発表しまして、そこでもいろいろな意見をいただけてきました。そういった内容を、市内の外国語教育推進委員会に伝えてたり、または研究主任会、ICTの中核教員へも伝えていきたいです。これは外国語教育における学習者用デジタル教科書という一つの視点ではなく、全ての教科で個別最適な学びの充実へつながっていくので、英語の先生の話だけじゃないですよってところを伝えていけたらよいかと思っています。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 浜井場小の結果は、子どもさんの数も少ないのでもう少し事例を集めるという話もありました。私も教育委員報告のところで前回申し上げた記憶があるのですが、鼎小学校なんかは子どもの数も多いのですが、このデジタル教科書の活用にかかわって、外国語活動・英語のところで、「マイ トライタイム」として、10 分間はデジタル教科書を使って個別学習、個人で学習を進めることを基本形として組んでいるという話を鼎小の校長先生から聞いたことがある。今、今後さらに進めていくという話もありましたけれど、学校を挙げて取り組んでいる、そんな学校の結果を見せてもらいながら、本当に効果があるのであれば、活用してもらえるようにしていくと良いのではと思

って聞きました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

三浦教育委員。

◇教育委員（三浦弥生） 感想です。

特別支援教育にあっても、外国語教育にあっても、ICT活用にあっても、どれもきちんと分析をしていただいて、課題抽出していただいている。どれもブレずに対応されているんだなというところを感じました。

印象に残っているのは30ページ、アクセスログの解析で気になる検索ワードをというところで、「自殺」といったキーワード、気になるところをきちんと学校にご報告いただいていると。こういった子どもたちの命に関わってくるようなところにもきちっとご対応をいただいているというところとてもありがたく思いました。

今後ともよろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

上河内教育委員。

◇教育委員（上河内陽子） 同じく今30ページのお話出ましたが、これをみてドキッとしました。

176人とおっしゃいましたが、延べ人数なんでしょうか。それとも本当にこの176人がこれを検索していたのかが、ちょっとそこが気になりました。

あともう1つは、北澤職務代理が言った37ページの浜井場小のこの伸び代がある子どもたちがこのデジタル教科書でうんと伸びたっていうのは、本当にありがたい結果だな。これは本当に活用されていくとうれしいなと思います。

やはりこの飯田市っていうのは地方であって、結構地方格差がなんてよく言われて、都会にいるような子どもたちのように塾通いをしたりとか、いろいろしない中で、とにかく学校で学力が伸びていくっていうのがあると本当、うれしいことだなというふうに思います。こういった活用、本当に期待しております。よろしく願いします。

○教育長（熊谷邦千加） はい。30ページの176人については。

櫻田教育指導専門主査。

○学校教育課教育指導専門主査（櫻田誠二） 先ほど私176名というふうに言ってしまいましたが、

176件です。アクセスログ176件なので、一人でいくつか該当する子もいます。

あとこれも言っておいたほうが良いなと思いますが、夏休みなので、ちょうどこの自殺予防のポスターをつくっている子とか作文を書いている子とかっていうのもいるので、全

てがそういう願望がある子とかっていうわけではないです。ですが、一応こういうことを子どもたちが調べてますよっていうことは学校へ提供して、この子は大丈夫かなとか、ポスターをつくっているから、ということを含めて学校で判断をお願いしているという、そのような状況ですので、よろしくお願いします。

○教育長（熊谷邦千加） なお、このログをこちらは確認してますっていうことは、最初の保護者の許諾の中に加えてありますので、市教委としてはその許諾を得た上でやっているということになります。

ほかよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

続きまして報告事項を続けてまいります。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （４）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは資料の 39 ページをお願いします。

日付が入っておりませんが、10 月 9 日スポーツの日に風越登山マラソン大会を開催させていただくということで、現在最終的な準備段階の詰めになっておりますが、参加申込みを取りまとめた状況を右側に昨年度の参加数を入れながら、確定をしておりますので報告をさせていただきます。

昨年より 200 人以上の参加増ということで、特に昨年度中学生や高校生の参加が少なかったわけですが、高校生については少し増えてきているような状況であります。

しっかり分析をしながら、また次年度につなげていきたいと思いますが、まずはこんな参加状況ということで報告でございます。

よろしくお願いします。

（５）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（５）「文化財保護活用課関係報告事項」。

宮下文化財保護活用課長。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（宮下利彦） 続いて資料 40 ページをご覧ください。

考古博物館で保管をしておりました古代の鉄製の鎧の短甲 2 領を、昨年 9 月に三菱財団

助成金の採択を受け修復しておりましたが、このたび修復を完了し皆さんに公開できる準備が整ってまいりました。

初公開を記念しまして、短甲と飯田古墳群の価値や魅力、さらに考古博物館を多くの方に知っていただきたく解説会・講演会を計画いたしました。

日時は10月29日日曜日の午後、考古博物館展示室を会場に古墳時代の甲冑を中心に研究されております奈良県立橿原考古研究所附属博物館学芸課長の吉村和昭先生をお招きいたしまして講演会を催す計画であります。

資料41ページに記載のとおり、ご案内は9月下旬から広報いいたや公式サイト、SNS、チラシ等で開始いたします。また、事前にマスコミ等を対象とした内覧会を予定しております。

なお、講演会の会場設営、展示室のレイアウト変更のため、10月26日木曜日から29日日曜日まで臨時休館とし、30日月曜日は通常休館のため、31日火曜日から短甲を一般公開してまいります。

講演会の聴講は、事前申込みとなっておりますが、10月31日以降はいつでも観覧できるようになっております。近くにお越しの際はご覧いただきたいと思っております。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（6）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（6）「公民館関係報告事項」。

上沼飯田市公民館副館長。

◎市公民館副館長（上沼昭彦） よろしくお願いいいたします。

本日お手元に今年度の飯田市民大学講座のチラシを配布させていただきました。先ほど上河内委員からも触れていただきましたが、9月29日飯田市美術博物館顧問の長谷川先生の講演会を皮切りに計5回この内容にて開催を予定しております。

同講座ですが、昭和52年の開校以来47回目を迎える非常に歴史のある講座でありまして、郷土の歴史、自然、文化などを学習することで、教養を得るとともにふるさと飯田の素晴らしさを再認識し、この地域の将来展望、可能性について考える機会といたしております。

同講座の企画名は、市民大学講座運営委員会が主体的になっておりまして、今回の講師等も委員会での検討を踏まえ決定をいたしております。

なお、第3講で予定しております伊原江太郎さん、この方、飯田線の設立に尽力した伊原五郎兵衛さんのお孫さんにあたる方ですが、ご家族のご事情によりまして、日程延期となっております。日程は改めて調整するところでございます。

内容、会場等は、このチラシのとおりでございます。

ご都合よろしければ、ぜひご参加いただきたくご案内させていただきます。よろしくお願い致します。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（7）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（7）「文化会館関係の報告事項」。

◎文化会館館長（下井善彦） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（8）図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（8）「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

7月の定例会でもお知らせいたしました、現在南信州図書館ネットワークのコンピュータシステムの更新のために図書館が休館となっております。分館は通常どおり開館しておりますけれども、中央図書館・鼎図書館・上郷図書館・駅前図書館は今月30日土曜日まで休館となりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（9）「美術博物館関係報告事項」。

牧内副館長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは「びはくにゅーす」の10月号をご覧ください。10月から予定しております美術博物館、考古博物館の事業を掲載してございます。

10月からの展示事業につきましては、10月8日から長野県美術展飯田会場が10月15日

までとなっております。この展示が終了後、工事のために休館とさせていただきます。

考古博物館の事業につきましては、先ほど説明がありましたので、省略させていただきます。裏面に各分野の講座の開催内容を掲載しておりますが、10月16日からの休館中の講座の場所等につきましては、ムトスふらざであったり外部の見学会、あるいはオンラインでの配信での開催ということで、講師や講座の内容に応じまして会場を別にしたり対面の形で開催をしております。

講座の内容また詳細につきましては、時間があつたときにご覧いただければと思います。
以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて(10)「歴史研究所関係報告事項」。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） それでは生涯学習・スポーツ課から歴史研究所までの報告事項をいただきましたが、この報告事項に関してご質問等ございましたらお願いをいたします。

（「特にございませぬ」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

(11) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは、(11)今後の日程について。

櫻井課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） 資料3ページの(11)今後の日程をご覧ください。

アからエにつきましては、先月ご確認いただいております。その下、10月2日から学校訪問が始まります。第1回の学校訪問は8時50分を集合時間としております。

次回、10月の定例会は10月17日でございますのでよろしくお願いいたします。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 今後の日程について何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

それでは、ここで、任期はまだしばらくありますけれども、定例会としては今回が最後ということになりますので、上河内教育委員さんから退任のごあいさつをいただければと

思います。

◇教育委員（上河内陽子） このたび、10月8日をもって退任させていただくことになりました。4年間ありがとうございました。

この4年間は大変大きな変化の時だったなあと思います。ICTを導入してタブレットが子どもたちに渡ったり、部活動改革があったり、そして何よりコロナ禍という試練がありました。

私自身のことを言えば、子どもが小中高と通っていたのが、今、進学して飯田を離れたり成人したりと変化もありました。4年間保護者として教育委員を務めさせていただいたおかげで、たくさんのことを勉強させていただきました。

単なる保護者としてでは分からなかったこと、影となり日向となり、いろいろとご尽力いただいている関係者の方々、先生方の姿、目の当たりにして、この飯田市で子どもたちを育てることができて良かったな、ありがたいなというふうに改めて感じました。感謝の念を深くした次第です。

今後も、ぜひどうか引き続きこの飯田市の子どもたちの教育環境がより良いものとなりますように、そして子どもたち一人一人が、みんなが生きて、大人も生かされて、生き合えるような、みんなが笑顔でいられるような教育環境になりますことを願っております。よろしく願いいたします。

最後に、いたらない点が多々あったかと思いますが、4年間皆さんのおかげでこうして務めることができましたこと、お世話になった皆様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

（拍手）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございました。心に残るごあいさつをいただきました。

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第10、閉会。以上をもちまして9月定例会を終了とします。ありがとうございました。

閉 会 午後 5時00分